

統一された情報伝達システムへの検討を

問 不審者情報や災害情報、イベント情報等を携帯メールで発信する統一されたシステムを検討してはどうか。

答 情報伝達の有力な手段と思う。保護者の方々や学校や保育所などと話をし、教育委員会や健康福祉部等で検討を進め、実用化に努力したい。

積極的な姉妹都市との交流を

問 姉妹都市ヒルスボロとの交流を積極的に行ってはどうか。

答 袋井国際交流協会が中心となり、活発な親善交流が行われている。今後も支援し、姉妹都市交流の持続発展を図る。平成20年度は提携20周年を迎えるので、記念的なイベントも考えたい。

消防署の新たな検討は

問 袋井警察署や病院、消防の広域化の計画が進む中、老朽化する消防署の新たな検討が必要と思うがどうか。

答 来年度県が消防の広域化計画を作成する。計画が明確になった段階で具体的な話に入っていけるものと考えている。



袋井消防署

市民病院問題特別委員会が提言書を提出

市民病院問題特別委員会は、平成18年6月議会での設置以来、9回の委員会開催をはじめ、外部講師を招いての講演会、先進地視察、研修などさまざまな角度から研究、調査を行ってきた。本年2月8日にはとりまとめの結果として提言書を議長に提出した。

「提言書」新市民病院についての記述部分(概要)

現市民病院の経営や診療体制に対する市民の不安は深刻の度を増しており、一刻の猶予も許されない。今後の病院のあり方に関する検討委員会からの提言、本特別委員会の提言を基に、なるべく早い時点で新しい市民病院建設構想を樹立しなければならない。

昨年10月に今後の病院のあり方に関する検討委員会から出された提言書は、医療分野のスペシャリスト等が中心となって慎重に審議されたものであり、尊重すべきであるとする。

特に広域化については、中東遠地域における新病院の位置づけを明確にし、建設位置については、市民の利便性を損なうことがないように掛川市との十分な協議が必要。言うまでもなく、市民に新病院の建設構想について十分かつ丁寧に説明し、理解を求めていくことが重要。中東遠地域内の病院や他の医療機関とのさらなる連携にも十分配慮する必要がある。新病院建設にあたっては、精度の高い財政計画の基で対応し、組織体制も万全を期すことが求められる。